



## 目 次

第55回金沢大学暁烏記念式・記念講演	
聖なるものを求めて ある日本人僧と現代インド仏教運動（島 岩）	2
ニュージーランドの大学図書館を訪問して（谷口貞治）	4
図書館のトピックス	
薬学部仮図書室がオープン	8
日曜も開いています 中央図書館	8
社会貢献情報コーナーを開設	8
東洋史 CD - ROM 閲覧用 PC 設置	8
図書館ガイダンス（説明会）を開催	8
本学教官著作等寄贈図書リスト	9
としょかん日誌（2004年3月～6月）	10



カラフルなカンタベリー大学中央図書館内（本文は4～7頁参照）

第55回金沢大学暁烏記念式・記念講演

## 聖なるものを求めて ある日本人僧と現代インド仏教運動

島 岩

アジア各地への仏教の広がり  
インドにおける仏教の滅亡

日本人の私たちにとってインドは「お釈迦さんの生まれた国」としてお馴染みだが、その思いは、アジア各地の仏教徒たちにとって共通のものである。すなわち、インドで生まれた仏教はアジア各地に広まり、現在では次のような三つの仏教圏を形成しているのである。

一つは、初期の仏教が伝わって現存している、スリランカ・ミャンマー・タイ・ラオス・カンボジアの上座仏教圏で、そこではインドの古い俗語パーリ語で書かれた仏典が用いられ、人々は修行して悟りを開き阿羅漢となることを理想としている。

第二は、中期の仏教が伝わった、中国・台湾・韓国・日本・ベトナムの大乗仏教圏で、漢訳仏典が用いられ、衆生を救済する菩薩となることがその理想とされている。

第三は、後期の仏教が伝わった、ネパール・チベット・ブータン・モンゴルの金剛乗仏教（密教）圏で、超能力と解脱をともに獲得した成就者がその理想とされ、インドの古い雅語サンスクリット語の仏典を用いているネパール以外はすべて、チベット語に訳された仏典を用いている。

このように、インドで発生した仏教は、アジア各地に伝わり、現在に至るまで伝承されてきた。ところが、肝心のインドでは、仏教は、13世紀初頭にすでに、ムスリムの侵入とともに滅びてしまっており、現在のインドは、ヒンドゥー教徒が人口の80%を越す国となっているのである。



講演する島文学部教授

インドにおける仏教の復興

このいったん滅びた仏教が、インドで復興されたのは、インド独立後のことで、1956年10月14日、不可触民解放運動の指導者アンベードカルとともに西インドのマハーラーシュトラ州にあるナグプールという都市で、30万とも50万とも言われる不可触民の人々が、カースト制度による差別からの解放を目指して、ヒンドゥー教徒から仏教徒（上座仏教系）へと大量改宗したのであった。そして現在では、人口の約0.8%（約800万）の仏教徒が存在するとされている（ただしインド仏教徒の活動家の中には、この0.8%という国勢調査上の数はあてにならず、実際には人口の約10%の一億はいると主張する者もいる）。

なお、この大量改宗を指導したアンベードカルとは、次のような人物であった。

1989年4月14日、不可触民の一カースト（マハーール）に生まれ、パローダ藩王の援助で不可触民出身者としては極めて例学的に高等教育を受け、インド独立後は初代の法務大臣と

なる。そして、心のあり方を変えれば差別はなくなるとするガンディーにたいして、差別をなくすためには制度の改革が必要であると唱えて、不可触民制〔犯罪〕法を成立させ、指定カースト保護政策を実施する。上記の仏教改宗後まもなく、1956年12月6日に死去。その死後、仏教徒たちに、彼は菩薩として崇められ、またその著書『仏陀とダンマ』は聖書として崇められている。

#### アンベードカル亡き後の仏教指導者

佐々井秀嶺（アーリヤ・ナーガルユナ）

インド仏教徒たちは、大量改宗後まもなくその指導者を喪失したものの、カースト差別撤廃のための政治的・社会的運動としての仏教運動に関しては、アンベードカルが創設したインド仏教徒協会と共和党を中心に拡大を続けていった。だが他方、そのいわゆる「宗教的」側面に関しては、指導者不在による混迷を続けることとなったのだが、その指導者不在を埋めるような形で登場してきたのが、日本人僧佐々井秀嶺氏であった。

この佐々井氏の経歴と活動は以下の通りである。

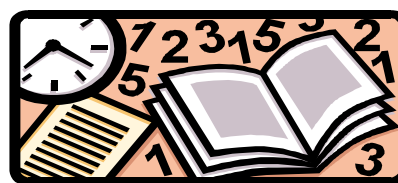
1935年岡山出身。25才のときに東京の真言宗高尾山に入り、薬王院主山本秀順師の弟子となる。その後、大正大学で5年間学んだのち、29才でタイに渡り、タイで約2年間サルヴォーダヤ・アーシュラム（出家の比丘が行う農村開発運動の拠点）で修行し、その後ミャンマーで数カ月過ごした後、31才のときにインドに渡る。インドではラージギルの日本山妙法寺で1年間修行し、そのときに現在多宝山山頂に建っている舍利塔建設の基礎工事に参加する。その後、瞑想中に現れた龍樹（ナーガルジュナ）の言葉（「汝、速やかに南天竜宮に行け」）に従って1967年にナグプール（竜の街）に移り住み、アンベードカルの流れを汲んで、カースト差別の廃絶とインドでの仏教復興に尽くし、現在、インド仏教徒の最大の指導者として、仏陀開悟の地ボードガヤーの仏教寺院大菩提寺をヒンドゥー教徒の手から完全に奪還するための運動を行っている。

この彼が、日本国籍を捨ててインドに帰化し、アーリヤ・ナーガルジュナとなったのは、瞑想中に現れた龍樹（ナーガルジュナ）の言葉「汝、速やかに南天竜宮に行け」の意味を、次のように悟ったからであった。

- （一）アベードカルの流れを汲んで、カースト制度廃絶を目指して、インドに仏教を再興せよ。
- （二）ナグプールの地に予（ナーガルジュナ）を顕彰せよ（インド密教の祖とされるナーガルジュナがどこで活躍したかは、現在のところ不明だが、最初の密教経典が発見されたと経典に記述のある地が、ここナグプールであり、このナグプールでナーガルジュナが活躍していたのだ、ということを確認して顕彰せよということである）。

この佐々井氏が、瞑想中の体験という不思議な体験に導かれて、仏教徒大量改宗の地ナグプールへと移り住み、インド仏教徒最大の指導者へと駆けのぼった背後には、仏教の偉大な菩薩（ナーガルジュナ）に導かれるという不思議な宗教体験を持ち、世俗を離れた出家者であり、病気くらいは治してみせる法力を備えているといった、インドの聖者の伝統的特質に加えてさらに、アンベードカルを受け継ぐ者であり、かつ、ガンディーの運動形態を受け継ぐ者でもある（たとえば、大菩提寺奪還闘争における闘争手段は、行進と断食である）という、近代をくぐり抜けた聖者としての特質をも備えているという点に求められるものと、私には思われるのである。

（しま いわお 金沢大学文学部教授）



# ニュージーランドの大学図書館を訪問して

図書館サービス課 谷口 貞治

2004年3月21日から7日間の海外出張という幸運にめぐまれ、比較的早期に管理・運営の改革が行われたニュージーランドの大学図書館、カンタベリー大学とオークランド大学の両図書館を和田敬四郎附属図書館長、牧村正史情報サービス課長と供に訪問し、大学の教育研究に不可欠な学術情報である電子情報サービス（電子ジャーナルやサブジェクト・ポータル等）を中心とした図書館情報サービスの状況及び図書館予算や図書館職員等について情報交換を行った。（なお、和田館長は3月末をもって定年退官された。）

## 1. カンタベリー大学図書館

Central Library, University of Canterbury

カンタベリー大学は、南島の都市クライストチャーチの緑豊かな郊外に位置し、そのキャンパスの中心のひとつ高い建物が中央図書館（写真 ）であった。Fuller, Teruko Oiso 氏の出迎えを受け、早速 Subject Librarian の Jackie Waylen 氏より担当する専門主題に特化したサービスについて説明を聞く中（写真 ）で、必要な情報がよくまとめられ、数々の利用指導が行われていると実感した。引き続き、館内を案内してもらったが、明るく自由な雰囲気（写真 ）を感じた。



写真 カンタベリー大学中央図書館外観

### a) 図書館職員の採用・評価

採用は、館長、副館長、他の図書館職員も新聞の公募による。しかし、大学図書館での長期の経営経験と能力が考慮の対象となるため、実際には、館内の職員が優先的に採用されるケースが多い。図書館職員は、予め年間の目標を各自が作成・提出しておき、その目標の達成度によって評価を受ける。その際、上司とのインタビューを受ける。また、職員の階層として9段階の職制が存在している。

### b) Subject Librarian の役割

28名の Subject Librarian が存在し、情報サービス部門の中に位置付けられる。ただし、日本語、中国語、ロシア語に関しては、蔵書構築サービス部門のアジア言語担当職員が受け持つ。担当主題は、“音楽と言語”といったように必ずしも学問分野に整合的なものではなく、現実的には、担当職員に関心の強い学問領域等に依存しているようだ。

主な機能としては、専門別主題の分類担当職員と連携しながら、資料の選定、学生に対する図書館利用指導、及び関連主題についての Subject Portal の維持・管理。基本的には、特定主題について、資料（情報）の入手、構築、評価からその利用指導までの非常に広範な機能を受け持つ。関連教員との連携。とりわけ、特定主題情報についての Bibliography の作成。特定の目的に応じた利用ガイド（例 Web of Science"MLA"等々のデータベース利用ガイドなど）の作成など。

各種のオリエンテーション、図書館利用案内（Library Survival Skill）コースと情報リテラシー教育コースの開設。年間8,000名程度の学生が受講する。情報リテラシーのコースは、カリキュラムの中に組み込まれていて、必須の単位になっているものもある（4～5時間程度のもの）。Database Tutorial コース：各種データベースの利用・検索指導。

その他、学生向けだけでなく、教職員向け、図書館職員向けの講習会・トレーニングコース(例：データベース利用などのための図書館職員向けの講習会)が用意されており、自己研修可能となっている。



写真 中央の Jackie Waylen 氏よりインターネット上のポータル作成等資料の説明を受ける。

#### c) 図書館と IT 部門の連携

中央図書館内に情報機器を扱う部門があり、7名の IT 部門職員が担当している。大学全体の IT 部門との連携を保つ。館内に IT 部門が管理する PC 教室 (Windows 用, Mac 用各々50台規模の部屋) がある。図書館は、別に図書館の情報リテラシー教育用の演習室を持って運用している (PC20台規模)。

#### d) 図書館資料 (電子情報) の購入と予算

図書館が管理する図書・学術雑誌等は、図書館で選定、購入、目録等を行う。

電子ジャーナルや二次情報データベースも、基本的には、この枠内で処理される。電子ジャーナルの場合は、雑誌担当チームや関連する主題の Subject Librarian, また、二次情報データベースはデータセットグループが関連部局の研究者等の意見や利用の評価などを参考にしながら購入決定を行う。

電子ジャーナル導入経費は、図書館予算を財源としている。学術雑誌については、冊子体から電子ジャーナルへ移行することによって予算を確保する方向。なお、データベースなど、年間購読料については一部利用者負担がある。図書館以外の各部局で購入する資料 (雑誌等) は、予算は図書館とは別立てになっており、購入手続きはするものの、図書館は分類・目録などはしない (管理はしないので、蔵書統計にも入らない)。部局の管理となる。

図書館の財政事情は非常に厳しい。図書館長は大学に予算要求するとともに、図書館としても制限ストライキなどを行っている (教員の支援もあるようだ)。



写真 カンタベリー大学中央図書館内のヘルプデスク。貸出は別の専用窓口で行う。

## 2. オークランド大学図書館

General Library, University of Auckland

ニュージーランド国内最大の都市、オークランドは高層ビルが立ち並び、多くの人々の波が通りを埋めつくしていた。市の中心部アルバート公園を通り抜けると、そこにオークランド大学のキャンパスがあり、総合図書館前は学生で一杯だった (写真)。玄関を入ると、そこには Kaaren Hiyama 氏 (Asian Languages Librarian / Japanese Subject Librarian) と Chie Emslie 氏が待ち受けていた。館長室 (約 6 畳ほどの広さ) に案内され、館長の Janet Copey 氏 (University Librarian) 手作りのクッキーを戴き、図書館管理運営等のお話を伺い情報交換を行った (写真)。その後、Kaaren Hiyama 氏から具体的に Subject Librarian の役割の説明をセミナー室で受け、館内と新設された Information Commons を案内して頂いた。



写真 オークランド大学総合図書館の外観

#### a) 館長と図書館委員会

館長は、全世界から公募し、大学が選ぶ。8名の副学長の一人で、ファカルティ・メンバー。ちなみに他の図書館職員も公募。

図書館委員会のメンバーは、各学部代表（教授）、各階層（助教授など）代表、及び学生代表（1名）による構成。年4回開催。図書館の予算及び運用ポリシーの審議。利用者層の反映であるので、館長とは、“対立”構造となる。図書館の運営は館長が、強力なリーダーシップのもとに最終決定権を持つ。

#### b) 図書館サービスと予算

従来の紙媒体資料の提供から電子的情報提供への移行を推進している。

資料費15百万 NZ\$（約11億円）

- ・雑誌，電子ジャーナル，データベース(71.5%)と図書(28.5%)
- ・電子的資料（電子ジャーナル，データベース）経費は，47%（約5億円）

図書館予算は，大学総予算の約5%を占める。図書館資料への大学の出資状況は良好で，資料費は，“Australasia”のトップ5を維持している。カナタベリー大学図書館に比べ，予算は非常に潤沢。

#### c) Subject Librarian の役割

Subject Librarian は，関連する研究者と連携しながら特定主題に対するサービスを担当する。担当する Subject は固定的なものではなく，変わることもある。複数の Subject を担当する人もいる。

Subject Librarian になるには，かつては，図書館学のマスターのディグリーが必要であったが，現在は，必ずしも必須ではなくなっている。

- ・特定主題についての情報収集，Bibliography 等のツールの作成
- ・サブジェクト・ポータル作成・維持（電子媒体及び紙媒体）
- ・レファレンス
- ・大学院生に対する論文作成支援・コンサルタント
- ・資料選定：図書，雑誌，電子ジャーナル，データベース等

資料の選定は，各部局の Library Liaison Officer（講師クラスから選ばれる。1年任期。）と連絡調整しながら選定。

- ・特定主題・授業科目に関連した情報リテラシー教育の企画・実施

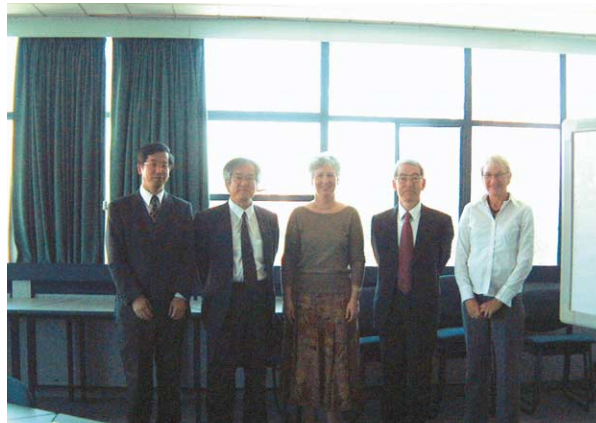


写真 セミナー室で記念撮影。右より，Kaaren Hiyama 氏，和田館長，館長の Janet Copey 氏，牧村課長，筆者。

#### d) 情報リテラシー教育

特定主題や授業科目に関連した情報リテラシー教育が，Subject Librarian を中心として，図書館のオリエンテーションとは別に実施される。これは大学のカリキュラムにも組み込まれていて，単位ともなる。実施する場所は，図書館の中や Kate Edger Information Commons 中の教室。

図書館の教育コース全体で，152コース開催（17,924名の学生受講）

Information Skills のコース

- ・一般コース（46コース。図書館職員用17コース

を含む) : 3,434名

- ・ 2時間コース(24回) : 420名の参加。
- ・ 特別コース(14コース, 35回) 教員, 大学院生 139名受講。

#### e) 電子的情報資源の提供

LEARN (Library Electronic Academic Resources Network : 図書館の全ての紙・電子資源及びサービス(要するにハイブリッド・ライブラリ)全体のWebのgateway)を改善し, 電子アクセスは, 2001年の2倍に増加。

LEARNでは, 二次情報データベース等(385種), 電子ジャーナル(46,000タイトル: 内15,000タイトルは, 図書館システムのVoyagerとリンク), e-Books(87,000点)を提供。

Subject Librarianによるサブジェクト・ポータル構築・維持。組織化された主題情報の提供(電子的情報資源及び紙媒体)。

#### f) Kate Edger Information Commons

2003年4月オープンした新しい情報支援を中心にした学生に対する統合的な学習環境を提供する施設。総合図書館の建物とは別にあり, 学生食堂や書籍など(Student Commons)と一体となっており, 学生に対するワンストップサービスのポイント。

Information Commonsは, 大学図書館とITSS (Information Technology Systems and Services)による, 組織横断的なJoint Projectで, 運営は, 図書館が中心に行っている。職員は, 図書館のLearning Service teamとStudent Learning Centre(学生学習センター)のteamが中心となり, ITSS's Electronic Campus Help Desk及びEnglish Language Self-Access Centre(文学部の応用言語研究学科)のチームも含め, Information Commons Help Deskチームとして構成されている。

Information Commonsの概念は, 北米で使われた



写真 Canterbury City Library エントランスのパソコンに写る当館ホームページ。

非常に新しいサービス概念。電子的な学習・情報資源へのアクセスを提供する施設で, 通常, 図書館内に設置される。

Short Loan Collections (Kate Edger Information Commonsのレベル1にある。)

授業に直接関係した教材等の学習用資料(教員により推薦される図書, 講義テープ, ノート, 試験問題, 雑誌論文や図書の抜き刷り等)で利用度が非常に高いため, 1時間~3日間という短時間の貸出をする資料。特に, 文学部, 経営・経済学部, 科学, 神学の学生を対象とするサービス。500台以上のコンピューターが設置されている。情報リテラシー教育の実施(演習室)など。

#### あとがき

2つの大学図書館とも一般市民へのサービスは, 誰でも利用可能であるが, 貸出サービスを受けるには, 年間利用登録料が必要, 貸出の延滞金も1日単位で取られ, 大学図書館の収入となっている。

時間の隙間に2つの公共図書館に立ち寄った。まず, Canterbury City Libraryでは, 館内の検索パソコンから日本語で当館のホームページが表示できたとき(写真), 更に, アポ無しにも拘らず, 貴重資料室に招かれ説明までしてもらい(写真)感動を覚えた。また, Auckland City Libraryは, AV資料が多く配架されていたこと。館内にはLibrary Shopもあり, 出口には警備員が詰めていたのが印象に残っている。

今回の訪問でニュージーランドの大学図書館の文化・制度を見聞できたことは, 和田館長, 牧村課長に援助され, お世話になったことで実現できたものと深く感じている。また, このような貴重な機会を与えていただいた金沢大学, 附属図書館の関係者の皆様に心から感謝の意を表したい。

(たにぐち さだはる 資料サービス係長)



写真 貴重書を説明してくれたベテラン Librarian。

## 図書館のトピックス

### 薬学部仮図書室がオープン

前号で作業の様子をお知らせしましたが、薬学部の角間移転に伴う薬学部図書室の移転作業が終了しました。自然科学系図書館オープンまでの間、薬学部実習準備室2（自然科学1号館1B122）、終夜・耐圧実験室（同1A133）、及びファカルティホール（自然科学本館1階）の3室で開室しています。問い合わせ：サービスカウンターへ TEL：234 - 6819



### 日曜も開いてます 中央図書館

中央図書館は、平成15年6月から、原則として休業期間を除く全ての日曜日を開館することにしました。また土曜日の開館時間も延長しました。開館時間はいずれも9：00～17：00で、学生や留学生、教職員の方々にはもちろん、市民の方々にもさらにご利用いただけるものと期待しています。



### 社会貢献情報コーナーを開設

西玄関を入ってすぐ、カード目録コーナーの手前に「社会貢献情報コーナー」ができました。法人化に伴う組織換えにより同じ情報部の一員となった「社会貢献室」が開設したもので、金

沢大学の社会貢献に関するホットな情報が展示されています。資料探しの合間に是非ご覧ください。



### 東洋史 CD-ROM 閲覧用 PC 設置

地階書庫入口手前に、韓国語及び中国語のCD-ROM閲覧用コンピュータが設置されました。韓国語資料は、「韓国歴史五千年」で、中には「三国史記」や「高麗史」などが含まれます。カウンターでCD-ROMの貸出を受けてご利用ください。また、中国語資料では、「四部叢刊 初編・続編・三編」がそのまま閲覧できます。



### 図書館ガイダンス（説明会）を開催

4月12日～16日まで昼休みに新入生のための図書館見学会を、次いで、19日～23日までOPACの説明会、5月10日～21日は日本語と英語の論文検索の説明会を行いました。また5月～6月の毎週火曜日には1時間確保して定例説明会を開催しました。内容は、蔵書検索（OPAC）、日本語論文検索・新聞記事検索、英語論文検索、電子ジャーナル利用などいろいろなメニューを用意しました。定例の説明会以外にもゼミ単位の利用説明会を9回、要望に応じてビデオ「新図書館の達人」の視聴やマイクロフィルム利用の説明なども行いました。これらの説明会全体の参加者は345人でした。



**ありがとうございました**  
**本学教官著作等寄贈図書リスト**

2004 / 2 ~ 2004 / 6

室木弥太郎（名誉教授）著  
かぶき創成  
風間書房，2004 .6  
（図開架774 2：M977）

鹿島正裕（法学部教授）訳  
アラブ・イスラエル和平交渉 / L.Z. アイゼンバーグ，N. キャプラン著  
御茶の水書房，2004 .1  
（図開架 319 28：E36）

鹿島正裕（法学部教授）編  
21世紀の世界と日本．改訂版  
風行社，2001 .9  
（図開架319 .1：K19）

大井学（教育学部教授）編  
子どもと話す：心が会える INREAL の会話支援  
ナカニシ出版，2004 .2  
（図開架371 45：K76）

青木健一（自然科学研究科教授）編・制  
素粒子と宇宙 [DVD]  
金沢大学理学部理論物理学研究室，2004 .1  
（図開架429：DVD115）

奥田晴樹（教育学部教授）著  
立憲政体成立史の研究  
岩田書院，2004 .3  
（図書庫312 .1：O41）

奥田晴樹（教育学部教授）編  
日本近代史概説  
弘文堂，2003 .12  
（図書庫210 6：O41）

梶川勇作（文学部教授）訳  
立地分析 / P. ハゲット著；野間三郎監訳 上，下  
大明堂，1976 .2  
（図開架332 9：H145：1 - 2）

李 慶（外国語教育研究センター）著  
日本漢学史 第二部  
上海外語教育出版社，2004 .3  
（図開架919：N719：2）

佐川哲也（教育学部助教授）編  
金沢大学角間キャンパス「里山ゾーン」を活用した里山学習プログラムの研究開発  
金沢大学，2004 .3  
（図書庫377 28：K16）

松下良平（教育学部助教授）著  
道德の伝達  
日本図書センター，2004 .2  
（図書庫371 6：M434）

振津隆行（法務研究科教授）著  
刑事不法論の展開  
成文堂，2004 .3  
（図開架326 .1：F984）

振津隆行（法務研究科教授）著  
刑事不法論の研究  
成文堂，1996 .8  
（図開架326 .1：F984）

鏡味治也（文学部教授）著  
バリ島の小さな村で  
洋泉社，2004 .6  
（図開架389 246：K11）

川上光彦（自然科学研究科教授）共著  
中心市街地再生と持続可能なまちづくり  
学芸出版社，2003 .11  
（工図518 8：N163）

竹原和彦（医学系研究科教授）編著  
よくわかる強皮症のすべて  
永井書店，2004 .2  
（医図書 WR260：T136）

松井修（医学系研究科教授）分担執筆  
消化器病診療  
医学書院，2004 .5  
（医図書 W1140：S559）

吉川京子（教育学部助教授）共著  
子ども・からだ・表現：豊かな保育内容のための理論と演習  
市村出版，2003 .4  
（図開架376 .15：K76）

柏谷健二（自然科学研究科教授）編  
Long continental records from Lake Baikal  
Springer, c2003  
（図開架450：L848）

（次ページに続く）

奥田晴樹（教育学部教授）編  
日本近代史概説  
弘文堂，2003 .12  
（図開架210 6：O41）

岩田礼（文学部教授）共訳  
漢語方言地理学 / 賀登崧著  
上海教育出版社，2003 .7  
（図開架828：G876）

柴田正良（文学部教授）著  
ロボットの心：7つの哲学物語  
講談社，2001 .12  
（図開架007 .1：S555）

柴田正良（文学部教授）編  
心の科学と哲学：コネクショニズムの可能性  
昭和堂，2003 .7  
（図開架141 5：K79）

三井徹（教育学部教授）著  
ロック音楽

金沢大学大学教育開放センター，1979 .10  
（図開架 764 .7：H827）

櫻井武（自然科学研究科教授）共著  
ベーシック無機化学  
化学同人，2004 .1  
（図開架 435：S968）

川上光彦（自然科学研究科教授）編  
参加型計画の理論と技法  
金沢大学工学部，2003 .6  
（工図 518 8：S227）

深山正幸（自然科学研究科助手）共著  
C/C++によるVLSI設計  
共立出版，2003 .11  
（工図549 .7：O57）



## としょかん日誌（2004年3月～6月）

3月21日 ニュージーランドの先進的の大学図書館の運  
～27日 営及び情報サービスに関する調査（カンタ  
ベリー大学，オークランド大学）和田敬  
四郎（図書館長），牧村正史（情報サー  
ビス課長），谷口貞治（資料サービス係長）  
4月1日 国立大学法人金沢大学発足に伴い，図書館  
組織等を情報部に再編  
4月8日 平成16年度新入生図書館オリエンテーション  
4月16日 総合科目「大学図書館への招待」開講  
4月22日 第55回北信越地区国立大学図書館協会  
～23日（KKR ホテル金沢）橋本哲哉（理事・館長），  
由良信道（情報部長），鈴木太郎（情報企

画課長），牧村正史（図書館サービス課長）  
出席  
4月29日 第55回金沢大学暁烏記念式・記念講演（サ  
テライト・プラザ）  
5月21日 国立大学図書館協会理事会（平成15年度第  
4回）（東京大学）由良信道（情報部長），  
鈴木太郎（情報企画課長）出席  
5月27日 第25回EDCセミナー（早稲田大学）巖本  
～28日 康治（参考調査係長）参加  
6月9日 2004年EDC/DEPトレーニング・セッショ  
～11日 ン（東京都）池上佳芳里（図書情報係）参加

## 金沢大学附属図書館報「こだま」第154号

発行：金沢大学附属図書館 編集：広報委員会  
〒920 - 1192 金沢市角間町 電話 076 264 - 5200  
ホームページURL <http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/>  
電子メールアドレス etsuran@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

2004年7月15日発行

印刷：株式会社 橋本確文堂

読者の皆様からのおたよりをお待ちしております。

表題地模様©Toku Yusui(加賀友禅染絵『さやく、おどる』。由水十久(初代。1913 - 1988)は金沢出身の加賀友禅作家です。)